

令和2年度
事業者防災訓練実施計画

令和2年. 9. 18

公益財団法人核物質管理センター
六ヶ所保障措置センター

1. 訓練計画概要

1. 1 中期計画上の令和2年度訓練の位置づけ

令和元年度は通報連絡、ERCとの連携を重点項目として実施した。令和2年度は昨年度の反省から通報連絡、情報収集、ERCとの連携を重点項目と位置づけ、訓練を実施する。

1. 2 訓練の目的

訓練は、原子力事業者防災業務計画 第2章第5節「防災訓練」に基づき、緊急時対策所（緊急対策本部）の対応能力向上を目的として実施し、緊急時対策所が原子力災害の拡大防止に有効に機能することを確認する。

また、前回の総合訓練で抽出された課題（通報連絡、情報収集、ERCとの連携）の改善を検証する。

1. 3 主たる検証項目及び達成目標

・【検証項目】 通報連絡

【達成目標】 以下の項目について有効性を確認する。

- ・ 通報連絡書作成後のチェック体制が機能し、適切な通報連絡書を作成できること。
- ・ 「応急措置の概要」作成時は、効率化、迅速化が図れていること。

・【検証項目】 情報収集

【達成目標】 以下の項目について、有効性を確認する。

- ・ 収集した情報をもとに戦略シートを作成できること。
- ・ 収集した情報を整理し、発生事象整理シートが作成できること。
- ・ 発生事象整理シート作成後のチェック体制が機能し、正確な情報が記載できること。
- ・ EAL 該当事象を判断したときは、現場対応要員と情報共有できること。

・【検証項目】 ERC との連携

【達成目標】 以下の項目について、有効性を確認する。

- ・ 事象全般を俯瞰する視点に立ち、情報提供できること。
- ・ 設備や対応措置について ERC 書架資料又は FAX 書面の情報資料を用いて説明できること。
- ・ 応急措置の実施結果の報告にあわせて、再放出の可能性の有無を報告できること。

2. 訓練実施日時および対象施設

2. 1 実施日時

令和2年10月27日（火） 13時10分～15時00分

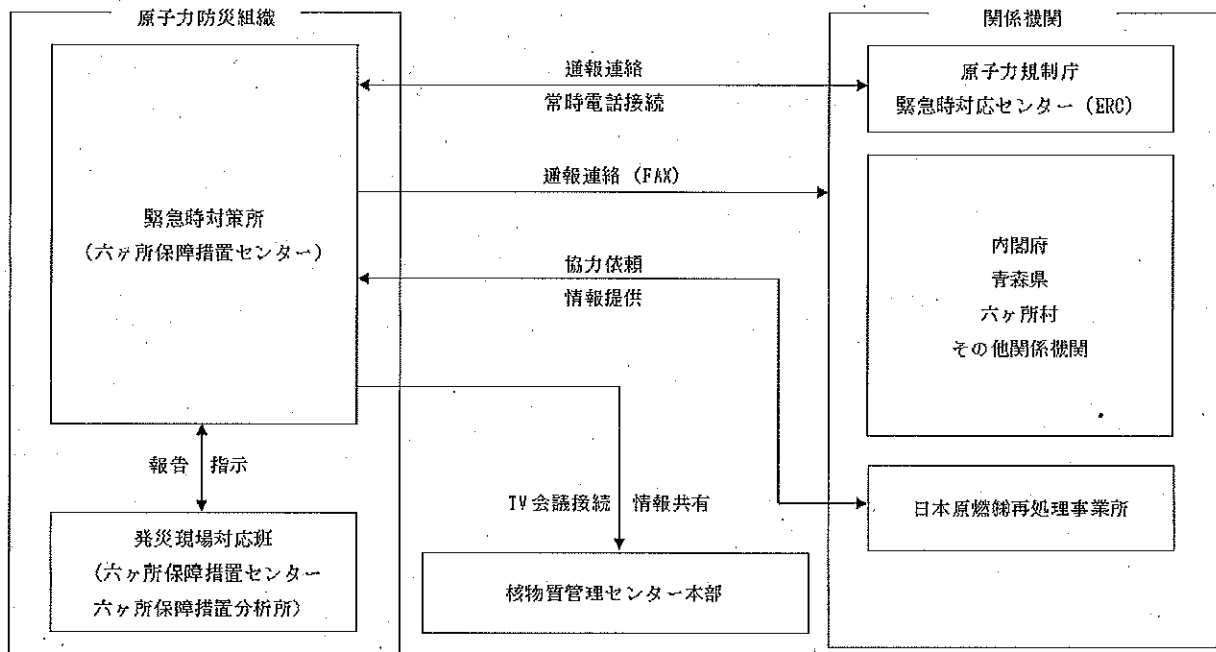
※訓練終了後に反省会を開催する。

2. 2 対象施設

- ・ 緊急時対策本部（六ヶ所保障措置センター内）
- ・ 六ヶ所保障措置センター六ヶ所保障措置分析所（日本原燃（株）原子燃料サイクル施設内）（発災現場）

3. 実施体制及び評価体制並びに参加人数

3. 1 実施体制



3. 2 評価体制

訓練経験者、評価経験者より訓練評価者を選任し、訓練の達成目標を踏まえ予め設定した「達成基準」及びこれまでの訓練からの改善事項に対する評価を実施し、客観的な視点から改善点の抽出を行う。評価には評価基準を記した評価シートを用いる。

3. 3 参加者 (予定)

参加者：プレーヤ 40名、コントローラ 4名

評価者：4名 (核物質管理センター職員)

4. 訓練項目及び内容

(1) 通報連絡訓練

警戒事態、原子力災害対策特別措置法（以下、「原災法」という）第10条事象、第15条事象発生時に通報連絡書を作成し、3.1実施体制に記載している関係機関へ通報連絡を実施する。また、第15条事象発生以降は第25条報告を作成し、3.1実施体制に記載している関係機関へ通報連絡を実施する。

(2) 情報収集訓練

緊急時対策所において、発災現場の情報収集、収集した情報の整理、状況判断（状況把握、事象進展予測、対応措置の決定・指示）、現場対応班との情報共有を実施する。

(3) 避難誘導訓練

原子力災害対策活動者以外の者の発災現場からの避難を実施する。

(4) 被災者の救護訓練

被災者の救護（汚染拡大防止、関係機関への連絡）及び被災者の搬送を実施する（医療機関への引渡しは模擬とする）。

(5) 汚染拡大防止訓練

適切な防護装備を装着のうえ、放射性物質の環境への放出停止のための措置を実施する。

(6) 資機材の調達訓練

原子力事業所災害対策支援拠点の設置に向けて資機材の調達を実施する。

(7) 放射線モニタリング訓練

発災現場及び周辺監視区域境界の放射線状況の監視、環境への放射性物質の放出量の評価を実施する。

(8) 消火活動訓練

関係機関への通報連絡及び初期消火対応を実施する（公設消防への通報及び消火剤の噴射は模擬とする）。

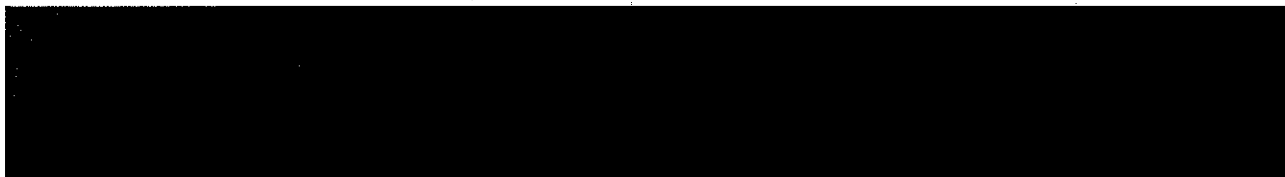
(9) ERC との連携訓練

ERC との電話接続による適時の情報共有を、予め情報を整理のうえ、時系列や優先度（重要度）を図り実施する。また原災法第 10 条確認会議及び原災法第 15 条認定会議において事故・プラントの状況、進展予測と事故収束戦略について簡潔明瞭に説明する。

(10) 広報活動訓練

特定事象発生後にプレス発表文を作成し、記者会見を行う（記者は模擬とする）。

5. 訓練想定（平日・休日、日中・夜間、施設運転状態、事象想定、スキップの有無等）



6. 訓練シナリオ案

別紙(事象進展時系列)

7. 前回までの訓練の課題に対する改善（対策）状況

No.	前回までの訓練の課題	改善（対策）状況
1	通報連絡書(FAX)全般において誤記、脱字があった。また、発生事象が EAL の基準値を下回ったことを応急措置の概要で記載しなかった。	
2	緊急時対策所で発災事象の進展予測、戦略の情報を整理し、ERC 対応者と共有できなかった。	
3	「発生事象整理シート」において、負傷者の発生時刻やEAL該当事象の状態を示すチェックに誤記があり、正確性に欠いた。	
4	緊急時対策所は原災法第15条該当事象に該当したことを現場対応班へ情報共有できなかった。	
5	1)放射線状況や施設状況に係る情報の整理ができず、ERCプラント班に事象全般を俯瞰した説明ができなかった。	

	2)地震直後の施設状況、原災法第15条該当事象の判断等の重要な情報をERCプラント班に速やかに説明できなかった。	
6	1)故障した設備、放射線状況の変動等のERCプラント班への説明は口頭によるものが多く、ERC書架資料又は通報連絡書(FAX)を用いた判りやすい丁寧な説明ができなかった。 2)ERC書架資料の「EAL判断根拠説明ロジック図」を用いた説明が不足した。	

8. ERCプラント班との情報共有に用いる資料・様式

- 資料-1 六ヶ所保障措置センター及び六ヶ所保障措置分析所 敷地周辺図
 - 資料-2 六ヶ所保障措置センター及び六ヶ所保障措置分析所 施設配置図
 - 資料-3 六ヶ所保障措置分析所及びモニタリングポスト配置図
 - 資料-4 六ヶ所保障措置分析所地上1階平面図
 - 資料-5 六ヶ所保障措置分析所地下1階平面図
 - 資料-6 六ヶ所保障措置分析所地下2階平面図
 - 資料-7 六ヶ所保障措置分析所排気系統図
 - 資料-8 分析セル外観図
 - 資料-9 中放射性グローブボックス外観図
 - 資料-10 低放射性グローブボックス外観図
 - 資料-11 質量分析用グローブボックス外観図
 - 資料-12 フード外観図
 - 資料-13 警戒事態 判断根拠説明ロジック図
 - 資料-14 施設敷地緊急事態・全面緊急事態 判断根拠説明ロジック図 (モニタリングポスト)
 - 資料-15 施設敷地緊急事態・全面緊急事態 判断根拠説明ロジック図 (排気ダストモニタ)
 - 資料-16 施設敷地緊急事態・全面緊急事態 判断根拠説明ロジック図 (管理区域外)
 - 資料-17 施設敷地緊急事態・全面緊急事態 判断根拠説明ロジック図 (妨害破壊行為等)
 - 資料-18 施設敷地緊急事態・全面緊急事態 判断根拠説明ロジック図 (臨界)
 - 資料-19 施設敷地緊急事態・全面緊急事態 判断根拠説明ロジック図 (事業所外運搬)
- 様式 戦略シート及び発生事象整理シート

9. 令和元年度訓練等を踏まえ、E R C 書架内の資料整備状況（資料リスト）

No.	資料名
1	六ヶ所保障措置センター原子力事業者防災業務計画
2	六ヶ所保障措置センター核燃料物質使用施設保安規定
3	六ヶ所保障措置センター核燃料物質の使用の変更の許可申請書
4	六ヶ所保障措置分析所の施設及び主要機器の配置図

シナリオシート(令和2年度 総合訓練)

時刻	No.	対応者	事象(概要)	EAL

核物質管理センター六ヶ所保障措置分析所 原子力防災訓練中期計画

(令和2年6月16日改訂)

実施年度	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度	
	【緊急時対策所の対応能力向上】	【現場対応班の対応能力向上】	【現場対応班は対象に応じた初期対応ができることを確認する。 ・現場対応班は緊急時対策所から指示を受け、被災者の救護、汚染拡大防止等の措置ができることを確認する。 ・前年度の総合訓練における課題の改善策を検証する。	【緊急時対策所の作成及びFAX送信、ERCへの情報提供が適切にできることを確認する。 ・前年度の総合訓練における課題の改善策を重点項目として確認する。	【緊急時対策所の対応能力向上】	【緊急時対策所と現場対応班で情報共有ができることを確認する。 ・通報連絡書チェック体制が機能することを確認する。 ・事故収束に向けた戦略が立案でき、的確に実施できることを確認する。 ・緊急時対策所内で情報が整理され、ERC対応班と情報共有できることを確認する。 ・前年度の総合訓練における課題の改善策を検証する。		
訓練の目的	・緊急時対策所はEALの設定に応じた判断、通報連絡ができることを確認する。 ・緊急時対策所は情報収集を行い、事態収束に向けた活動ができることを確認する。	・現場対応班は緊急時対策所から指示を受け、被災者の救護、汚染拡大防止等の措置ができることを確認する。 ・前年度の総合訓練における課題の改善策を検証する。	・現場対応班は対象に応じた初期対応ができることを確認する。 ・現場対応班は緊急時対策所から指示を受け、被災者の救護、汚染拡大防止等の措置ができることを確認する。 ・前年度の総合訓練における課題の改善策を検証する。	【緊急時対策所の対応能力向上】 ・通報連絡書の作成及びFAX送信、ERCへの情報提供が適切にできることを確認する。 ・前年度の総合訓練における課題の改善策を重点項目として確認する。	【緊急時対策所の対応能力向上】 ・緊急時対策所と現場対応班で情報共有ができることを確認する。 ・通報連絡書チェック体制が機能することを確認する。 ・事故収束に向けた戦略が立案でき、的確に実施できることを確認する。 ・緊急時対策所内で情報が整理され、ERC対応班と情報共有できることを確認する。 ・前年度の総合訓練における課題の改善策を検証する。			
訓練の方式	・シナリオ非提示（ただし、概要は周知） ・EALの判断、通報連絡はシナリオ提示	所内管理職（課長以上）に訓練実施計画を開示	所内管理職（課長以上）に訓練実施計画を開示	所内管理職（課長以上）に訓練実施計画を開示	シナリオ非提示（ただし、概要は周知）			
検証項目		①救護 ②汚染拡大防止 ③通報連絡 ④ERCとの連携	①救護 ②汚染拡大防止 ③通報連絡 ④ERCとの連携	①通報連絡 ②汚染拡大防止 ③その他前年度の課題の改善策を検証	①通報連絡 ②情報収集 ③その他前年度の課題の改善策を検証			
訓練項目	要素訓練	総合訓練	要素訓練	総合訓練	要素訓練	総合訓練		
通報連絡	○	○	○	○	○	○		
情報収集		○	○	○	○	○		
避難誘導	○					○		
被災者の救護			○			○		
汚染拡大防止	○	○	○	○	○	○		
放射線モニタリング						○		
資機材の調達及び輸送						○		
消火活動		○	○	○	○	○		
広報活動		○	○	○	○	○		
ERCとの連携	○	○	○	○	○	○		
日本原燃燃再処理事業所との連携					令和2年10月予定 日本原燃燃再処理事業所の訓練にあわせて実施予定			